囲碁案内人連絡会はいかに活動しているか

その１　子どもと親への囲碁の普及を

成田　滋

この欄で、二回にわたり八王子囲碁連盟(以下八碁連と略す)がいかにして市内の青少年に囲碁の啓蒙と普及に関わってきたかを振り返り、その展望を記してまいります。この記事を通して、八碁連が追求する目標に向かってどのように努力しているかを会員の皆様にご理解いただきたいと考えます。

手許に平成 29 年 4 月 5 日付けの「囲碁案内人連絡会の活動の経緯」という南正一郎氏らがまとめた 3 ページの文書があります。これによると「平成 23 年に八碁連活性化諮問委員会を、平成 24 年に同実行委員会を設置し、その実行項目の一つとして、青少年囲碁愛好者育成を八碁連事業の重要課題とした」とあります。これによって設立されたのが「八王子囲碁連盟青少年囲碁指導者連絡会」、今の「囲碁案内人連絡会」です。今から 6 年前のことです。

この組織に関わった方々は、端山昌夫氏、佐藤義廣氏、塚原和利氏、信江峻氏、三浦晴久氏、南正一郎氏、廣島松治氏、そしてオブザーバーとして倉内満氏、帖地美乃里氏が名を連ねています。設立の席上、倉内氏は「30 年間子どもに囲碁指導を行ってきたが、個人での活動には限界がある。八碁連という大きな組織の中で活動することになれば、大きな力が発揮でき期待もできる」という展望を述べておられます。

八碁連はひとつの共同体です。ブリタニカ百科事典によりますと、共同体とは利益を目指すものではなく、「地縁とか友情などにより自然発生した有機的な社会集団」です。共同体は、人間関係が最も重視され、地域住民が生活している場所、たとえば、教育、趣味、遊び、スポーツ、芸能などにかかわり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会のことです。八碁連は、伝統文化である囲碁を結節点として、住民相互の交流を促し、自分の棋力を高めると共に、子どもの成長を支え、そのために一人ひとりが何らかの役割を果たしていくことが期待されているのです。そのためには、相応の費用がかかるのです。

平成 24 年度に始めた子ども囲碁大会は参加者数が少なく、囲碁を学ぶ子どもの裾野をいかに広げるかが問われていた時期です。ほんの一握りの会員が全くの手弁当で学校での囲碁教室を開拓していました。そして平成 26 年の初頭に南氏と廣島氏が、市役所において文化庁が「伝統文化親子教室事業」という補助事業を行っているという情報を得ます。この事業は、「伝統文化等の継承・発展と，子供たちの豊かな人間性の涵養に資することを目的とする」というものです。この助成事業に注目したお二人の慧眼に脱帽したくなります。爾来、囲碁案内人連絡会はこの補助事業に応募し、今日に至っています。(続く)

【参考】
平成 31 年度伝統文化親子教室事業（教室実施型）について
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/oyako/1409613.html